

# 絶滅危惧趣味フィラテリーの保護

小川 義博

いまや絶滅の危機に瀕しているフィラテリー、その保護をいかに図るか。従来の生息地であるストックブック、アルバム、郵便局等に限定し保護していたのではもはや繁殖は無理であろう。まったく異なる分野に少しでも生息地をもとめる視点で絶滅回避を考えてみたい。

時間にゆとりができ、いろんなメディアに触れる機会が増した。なにげなくぼんやりしていると切手が目に飛び込んできて、気をとりなおすことがある。そんな生息地をよく観察し、生息地の多様化をはかり、わずかでも繁殖増が図れればと思う。

映画、ドラマで郵便物が映し出されるのは、一瞬であるが、時代考証がされている普通切手が貼られた封書、はがきがほとんどである。時には切手が重要な脇役となっているものがある。代表的なものはオードリー・ヘップバーン主演の「シャレード」であろう。しかし、ここで使用された切手は架空の切手であった。



シャレードに映った3枚で26万ドルのSCOTTにない切手

最近、目にとまったものはアラン・ドロン、ジャン・ギャバンが出演する「シシリアン」である。護送車から逃亡したアラン・ドロンが助けをもらうためにジャン・ギャバンの扮するマフィアの顔役に切手を提供する。2つの映画とも現金の代わりに高額な切手がちいられているが、すこし、利用のされ方が異なる。「シャレード」では非常に高額な切手3枚（合計で約26万ドル）を封筒

に貼って用いられている（会報22号19頁参照）。対して、「シシリアン」では1冊の重厚な切手アルバムが用いられている。字幕だけでは評価額はわからない。映画ではその中の2種の2ページが映されているが、こちらも残念ながらSCOTTには載っていない切手のようである。



アラン・ドロンがジャン・ギャバンに切手アルバムを渡す

1種類はブラジルの牛の目を想定したものであろう。もう1種は、1930年代の仏領モーリタニア航空切手を想定したらしい。仏語のモーリタニア、貨幣単位はフランでなく、シリングを表す10'が記された珍しい切手になっている。画面をキャプチャーしてみると、エラー切手を並べ、エラー個所を矢印指示したページであることがわか



ブラジル 牛の眼か



仏領モーリタニア切手を想定か



鑑定人が厳重に鑑定する。航空機、ラクダが印刷もれだったり、色違いであったりしている。映画ではルーペを使用して鑑定人が評価するシーンが映し出される。

4～5秒程度でもエラーの説明とその評価の会話があったら、切手収集への興味、関心が持たれたかと、残念な思いである。

次に、テレビのドキュメント番組で多くの切手を資料として有効に活用したものがあつた。一昨年、NHKBShiで放送された世界一番紀行シリーズの”世界一孤立した島～南大西洋 トリスタン・ダ・クーニャ～”という番組である。この島の自然、歴史、生活の一部を切手を用いて紹介していた。このように切手を重要な参考資料にした番組は記憶にない。視聴された会員も多いと思いますが、紹介したい。

この島、南大西洋の吠える南緯 40 度海域にある小豆島と同面積ぐらいの海底火山でできた島で人口 260 人の英国自治領。年間予算 140 万ポンド、



空路なく年 10 便のケープタウンから 10 日要する定期運航船が運航する



テレビ画面に映し出された島に生息する貴重な動植物の切手

ド、ロブスターの輸出と切手が収入源。貴重な固有の動植物が生息していることを画面に切手で紹介。この島に最初に移住した人、ウィリアム・グラスを切手で紹介し、その一生を描いた小型シートでその一生を説明し、加えて7代目の子孫も紹介。スエズ、パナマ運河が開通前で主要航路上に位置し、さらに捕鯨船も多いクーニャの周囲は座礁等の遭難が多かったようだ。この島に助けられた者の子孫 2 名の島民が切手とともに紹介されていた。

この方々、この島の基本精神、平等、分かち合い精神のもと、一人当たり 2 頭の羊と決められた畑の管理等をしているとのこと。番組で紹介された島の生活、歴史に興味を持ち SCOTT をひらくと、さらに、この島の放送された場面が切手に描写されていた。年に 10 回だけ届く郵便物の到着の様子が小型シートになっている。さらに、描かれた内容を小型シートの中で説明するスペースを持っている。小



最初の住人グラスと7代目グラス(警官)



グラスは1816年、ナポレオンのセントヘレナ島からの脱走に備えて他の兵士とこの島に上陸。翌年の帰国に際して家族を呼び寄せ、島に残り島の最初の入植者になる。男女8人、16人の子宝にめぐまれ、島に漂着した5人と公平という島の基本の規則をつくり、島に一生をささげた。



2ヶ月に1回、船で届く郵袋、小型トレーラに載せ、集会場に運ぶ、空のボンベをたたき郵便到着を島民に知らせる



他の祖先と一緒に墓地で眠るグラス



左・米国捕鯨船員子孫で牧場を管理するロジャー氏  
右・嵐で海岸に漂着したイタリア帆船とその船員の子孫で電子技師ロビン氏

さな島とはいえ日常の生活の様子を切手に描くことは、切手の持つ意味を考えさせ、絶滅危惧種生息地拡大の一つの方法とも考えたい。

この島も火山島の宿命、三宅島と同じく住宅の至近で火山の噴火があり、イギリス本国に全島避難を2年間強いられている。帰島は避難した島民の90%の希望で決定した。その経過も切手になっており、きちんとしたドキュメント番組の重要な資料のとして役割を果たしている。

次は、トピカル収集された切手が学術放送番組の前後に興味深く流れているのに出くわした。放送大学の「身近な統計」という半期15時限講座の放送である。たぶん、二人の担当教授のどちらかが絶滅危惧種個体なのであろうか、“統計”に関係する人物、統計グラフを描いた切手が美しく数式と共に画面に流れて行く。

画面をスキャンしてみると人口統計ピラミッドを描いた2枚の切手が目についた。一枚は1979年オーストリー発行の中央統計局150周年記念切手。



統計図表、統計学者の切手が中心に次々とズームアップされてくる



切手が四方に大きくなって消えていく



人口統計チャートと計測器を持ったバロック時代の童子



3時代の人口構成を比較する切手

オンを考えるとときなどに参考になるものであろう。また、一枚の女性の切手が興味深い。戦場より、野戦病院で戦死者が圧倒的に多いことを統計的に示し、野戦病院の衛生、医療改善に努力したナイチンゲールの切手である。看護の精神で有名なナイチンゲールを統計学者としてズームアップした画面である。このようにわずかな時間ともうけられ、画面に注意してもらえるような配慮がされれば、繁殖地がわずかでも増え、絶滅の危惧が少なくなるかと感じる。

民族文化の学問的な資料として2枚の切手が意外な俳優と共演している。樹木希林のNHKの韓国骨董を紹介する番組「温故希林」である。韓国伝統衣装”チムチョボリ”の切手。500年に及ぶ韓国王朝時代、身分によってチムチョボリの色、材質が厳格に決められていたことを切手で見せている。注意されるのは平民のチムチョボリのものが発行されていないのか、切手に似せてデザインされたものを並べていた。ここまでして、この2枚の切手を使用したのは資料的な価値のある図柄を描いた切手なのであろうか。

対象が異なるが、ひょんなところに絶滅危惧趣の

人口統計ピラミッド型チャートと計測器を持ったバロック時代の童子をデザインした切手。チャートの色分け使いなどグラフ表現を考える上で参考となるものである。もう一枚は1989年ドイツ発行の年金保険100周年記念切手。年金の問題を過去、現在、未来の人口統計表から考えさせるもの。プレゼンテーション



繁殖地を見つけることがある。孫の絵本を探して目にとまったものである。『ふしぎなえ』（福音館書店）を著した画家、安野光雅の『おとぎの国の郵便切手』（岩崎書店）である。切手を描きたい主人公ペンタと自分でも切手を描きたい王様との話で10種類の切手シートが描かれた本である。内容も然ることながら、最終ページに著者の絵が実際に切手になったふるさと切手（萩・津和野）の実物が貼付してあり、その前頁のあとがきに下記の解説が載っている。



あとがき

この国の大臣はどうしても郵政省というものを作りたいと思っっているし、大臣は王様が絵を描かれたら困ると思っっています。かわいそうなペンタは、その後も、絵の勉強をつづけているという話です。いつかは、ペンタが切手の絵を描ける日がくるかもしれません。

次頁は私の描いた、ふるさと切手のシリーズの一枚で、萩・津和野をテーマにし、中国郵政局が発行したものです。この切手は記念にこの本に貼ってあります。

萩は山口県の城下町で、吉田松蔭、高杉晋作たちが育ったところです。津和野は島根県の城下町で森鷗外、西周の生地です。今はJが走っていることでも知られています。機会があったら、萩・津和野へ行ってみてください。自然の残る、とてもいいところです。

安野光雅

このように意外なところで切手を目にして、切手の利用をもっと広げることで絶滅危惧種を増やしていけると考えたのであるが、甘い夢であろうか。

保護対象として切手に描かれた日本カワウソが絶滅種となり、郊外に行けばごく普通に見られた田メダカが絶滅危惧Ⅱ類として切手に描かれているのを見るにつけ、フィラテリーがその生息場所をアル



バム、ストックブック、切手展、同好会、郵便局等に狭めていないで、他の種族が切手を時

に利用してみたいと思わせるような環境拡大づくりを意図した営巣(収集)が必要ではないであろうか。過去の異常繁殖した状態は望ましくないが、絶滅危惧種として繁殖に意を注がなければならないと考える。

最近のネットを中心とした情報メディアの多様化を考慮した時、切手画像の電子FILE化が不可欠であろうと考える。加えて、それは利用の汎用性の高さを持つFILEであることが重要である。近年の画像処理方法の多様化と簡便化と印刷方法の手軽さを考えると、どのようなメディアでも利用可能なFILEの準備と提供が大切である。そのためには高画質、高解像度の切手の電子FILE化が求められる。切手に興味、関心を持ってもらうためには、切手の内容と美しさを分かりやすく示す必要がある。稲門フィラテリー常設展の展示、切手博物館の展示等のように少なくともB5版程度に切手を高画質で出力して利用できることである。残念ながら、現状ネットから利用できる切手FILEには切手の魅力を示せる大きさと印刷、電子画像での出力に耐えられるものは非常に少ない、多くが端末画面表示で名刺大が限界である。記憶媒体の拡大と低価格化、そしてウェブの進化を考えると、FILE容量のおおきさは問題にならないであろう。次に、用意できた高画質

四季花木図屏風

鈴木其一筆  
六曲一双  
江戸時代・弘化～安政期  
紙本金地着色  
各 132.8 × 318.8 cm  
出光美術館蔵

中屏風に四季折々の草花や花木を描いた図。右隻は紅白の梅、左隻は紅葉の樹木を中核にしなが、左右の画面は流水を介して一つの画面に結ばれる。草花のモチーフには写実的なものと意匠を凝らしたものが混在するが、後者の単純な形象には思い切った賦彩も相まって、まるで図案をみているような楽しさがある。このように絵画と装飾文様との中間に位置するような作品は、ほかにも「菊に流水図」(米田ギッター・コレクション)のような例がある。平面装飾を特色とする琳派の伝統上にあるが、たとえば岩組の表現には狩野派と琳派を学んだ絵師渡辺始興の影響もうかがえる。師匠である抱一の世界とは明らかに隔たった、其一ならではの個性豊かな造形感覚に満ちた一図である。(出光美術館名品選Ⅱ)

2013年 11月  
日 月 火 水 木 金 土

2007年10月1日発行  
郵便民営会社発足記念切手  
グラフィア

2013年「切手と屏風カレンダー」の11月

FILEの整理方法が重要になる。希望された事項に該当するものを少なくとも100FILE位すぐ提供できる環境が準備できればと考える。国、動物、植物、魚、昆虫、美術別等ごとに対応できるような生息環境である。危惧種個体が自分の営巣を電子FILE化し、準備して、日常生活で利用したり、他からの求めに応じられるようにしたら危惧種への関心が広がり絶滅を少しでも遅らせられるのではないだろうか。私事で恐縮であるが、退職後の名刺、便箋、一筆箋、賀状等の片隅に相手の好み、季節を考慮した切手を印刷しひんしゅくをかたりしている。そんな中、意外と好評だったのが美術品の切手とその原画を組み合わせたカレンダーであった。今後も、少しでも多く絶滅危惧種の素晴らしさを発信していきたい。